

2016年3月20日(日) -26日(土)  
アンナプルナ&ダウラギリ展望トレッキング(2)  
トレッキングコース前半編  
文と写真 by 根岸

3月18日(金曜日)から11日間、ネパールアンナプルナ裏銀座ルート(アンナプルナ&ダウラギリ展望トレッキング)に参加した。このレポートは、「ネパール・ツアー概要編」に続いて「トレッキングコース詳細(前半)」を紹介する。

このツアーは、クマさん会メンバーが良く利用している西遊旅行主催で、岡部さんからは、乾季で天候が安定しており、「山」、「星」、「しゃくなげ(石楠花:現地名ラリグラス)」が良く見える3月を勧められた。また、6000m級経験者の堀さんからは直前に「3000m台なら高山病は心配ない」、「帰国後にレポートを書け」との激励を頂いた。

私自身は、人類初の8000m峰登頂記「アンナプルナ登頂(岩波少年文庫) M.エルゾーグ著」を12歳ぐらいで読んだ記憶があり、その中に出てくるアンナプルナ(豊穣の女神)とダウラギリ(白い山)は「一度は見てみたい」山であった(サンスクリット語)。実際は、それぞれI峰からV峰位まで有る山群であった。エルゾーグ達フランス隊は、1950年4月インドから今回のツアー山域に入り、ダウラギリとアンナプルナ登頂を目指した。実際は少し奥のレテ(2500m)からツロブギン峠(4310m)を越えて、アンナプルナI峰東側にベースキャンプ(BC)を設営し、6月3日に登頂している。

ダウラギリは偵察隊を派遣したが断念した。また、ダウラギリは日本山岳会に所属したS社の方が遭難死された山でもあると、出発前夜に熊本さんからお聞きした。

3月20日(日) トレッキング初日:



初日は、ポカラを7時にバスで出発し、9時前にナヤプール(1025m)に到着した。9時半からモディー川沿いを歩き、シャウレバザール(1170m)経由し、段々畠を眺めながらガンドルン(1950m)を目指す。6時間の予定。  
2日目は、約6時間歩いてタダパニ(2595m)まで進む。  
3日目以降は、ツアー初ルートである。



アンナプルナ BC (4130m) やマチャブチャレ BC(3700m)まで溯るモディ・コーラ (川) 沿いの道を辿る。



石段の坂道が続く。途中で、制服姿の子供達とすれ違った。



ACAP(Annapurna Conservation Area) 発行の保護区入域許可証に判子を貰う。2000rp(20\$位)、登録が無いと‘倍付け’の罰金を払わされる。



時折、ジープやバイクが通る道をひたすら登る。埃がすごい。  
「ビスター (Bistaar) = ゆっくり」と「ナマステ=こんにちわ・さようなら」のネパール語を覚えた。



木綿の木=きわたのき (red silk cotton tree) の真っ赤な花が咲き誇っていた。種子に纖毛が詰まっているのがこの名前の謂われ。インド原産



段々畑（棚田）沿いの石畳を登る。時折、祭壇が祀って有るが、中にはお地蔵などは無かった。ネパールには、330万の神様がいるとガイドブックには書いてあったが、ヒンズー教とチベット仏教が混在している。



初日は、約 2 時間の昼食や休憩を入れて、17 時半にガンドルン (1950m) のホテルに着いた。合計約 6 時間の歩きだ。部屋に入るとプラスチック製容器にお湯が配られて、顔や体を拭く。夕食は18 時半、就寝は 20 時半だった。

3月 21 日 (月) : トレッキング 2 日目 :



二日目朝は、6 時に起床しお湯を貰って顔を洗い、7 時に荷物出しと食事、8 時出発である。これが定番になった。ガンドレンからタダパニ (2630m) まで約 700m を約 4 時間で登る。マチャプチャレ (6993m 右側) とヒウンチュリ (中)、アンナプルナサウス (7219m) が見えてきた。目指すアンナプルナ I 峰はまだ見えない。



石段のトレッキングルートが続く。気持ちが良い。



2000m を超えると、お目当てのシャクナゲ樹林が見えてきた。



2日目は、12時過ぎに宿泊地のホテルに着いた。



昼食後に、荷物を整理し、写真を撮りまくる。シャクナゲの花。



木蓮の白い花が、シャクナゲの赤い色との対比で目立った。



翌朝、4時半に起きて、アンナプルナサウスと星空を撮影した。開放で、シャッタースピード20秒で撮影した。

「星が綺麗」と岡部さんに言われていたが、夜間は満月（と雲）が邪魔して良い写真は撮れなかった。



アンナプルナサウスの姿（朝6時ごろ：220mmの望遠で写す）。



3月22日（火）からのトレッキング3日目出発前に撮影。

これ以降は、トレッキングコース後半編で記す。

2016年4月7日作成